

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦802番地8		
自己評価作成日	平成30年2月8日	評価結果市町村受理日	平成30年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほぼ毎月消防訓練を行っている。職員の移動や退職・利用者さんの入・退所が少なく慣れ親しんだ環境の中で生活されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護経験の豊富な経営者が事業を運営され、職員にとっても働きやすい職場環境を整えることで、職員の心に余裕が生まれ、入居者へ心のもった支援に繋がっている。ホーム全体が家庭的な雰囲気になっており、入居者、職員、家族が和気藹藹と互いに冗談の言い合える関係を築いている。管理者及び職員の日々の取組みにより住民との交流も盛んで、介護教室、消防訓練への地域住民の参加、緊急時に対応する為の近隣商店、住民、行政機関との協力体制の構築等、地域との関係性が良好であることが窺える。職員の入れ替わりも少なく、馴れ親しんだ入居者と職員との関係が構築され、入居者が自分らしく過ごせる環境づくりへの支援がなされており、今後の展開が楽しみなホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念安心して暮らすということ、自分らしく生きるということを共有し実践に繋げている。	「入居者がその人らしく生活できるように」との想いを込め、9年前に社長も含め全職員で考えた理念である。入居者毎の生活パターンで経過してもらう事を第一に考え、職員間で話し合いを行いながら共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り行事には参加している。地域の方とお祭り、地区清掃、運動会、駅伝の応援など一緒に参加している。又社長は地区の会計を受けもっている。	ホームは市の委託事業として調理専門学校の生徒を講師に招いて公民館でフライパン一つでできる料理教室を開催し、地域住民が多数参加している。町内会にも加入し、地域マラソン大会の応援に参加するなど活発な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年介護教室を開催し参加してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告、つぎの行事予定入居者、待機者、職員研修等報告し話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者、家族、町内役員、地区住民、社会福祉協議会などが参加し、火災報知器を外に聞こえるような場所に設置した方が良いとの提案を受けるなど、毎回活発な意見交換が行われている。	ヒヤリハットに関しては職員が抵抗なく書き易いよう工夫がなされ事故防止に努めている。よりホームの透明性を図る為にもヒヤリハットや改善への取組みについても運営推進会議に報告する事が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に必ず行政には参加してもらいホームの現状を伝えたり市町村からのお知らせや意見などを頂いてお互い協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者が運営推進会議に出席し、感染症の説明、各種研修案内等の情報提供を得ている。困難事例については夫々の事象に応じ、行政、病院、包括支援センター等相談窓口を確保している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が夜間施錠以外玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止については内部研修で理解を深めている。又、職員はスピーチロックについて留意に努め、制止するような場面では入居者へ理由と対応を伝えるよう努めている。入居者の危険防止の為、センサーマット使用時は同意書と共にケアプランにおいても明確にする事としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待が起きない様、見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については知っているが現在必要される方が居られなく活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い納得理解をされてから契約に結びつけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や推進会議時家族等が意見、要望を出される機会を設け、それらを出来る限り運営に反映させている。	意見箱は玄関に設置しているが入る事はなく、面会時に会話の中で聴き取るよう努めている。全入居者が長期間に渡り当ホームで過ごされており、職員と入居者本人、家族が共に気心が知れ、忌憚のない意見交換ができています。会話で新しく聴き取った情報は、業務日誌、送りノートに記入し共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日々日常休憩時間や職員会議のなかで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月、職員会議及びケース会議を開催し、活発な意見交換を図っており、入居者の身体状況に併せ自力で食事ができるよう食器の提案を行うなどの事例が窺えた。会議に欠席した職員は自ら議事録を見て押印し、内容の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々の資格手当を頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員にホーム外の研修を受ける機会を設けてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、職員が同業者と交流する機会を作り、勉強会、グループホーム連絡協議会等参加させてもらい、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け本人が安心を確保できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け安心される関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所段階で、本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を家族の一員とし介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望された時は教会に連れて行ったり町の運動会に連れ出したりし人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者支援の場面で聴き取った情報は、アセスメントシートに記入している。入居者が法事等の家族行事に参加する場合は家族対応となる為、車椅子貸出しや介助方法を助言するほか、代筆、電話取次き等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごされる方は利用者同士の関係を利用者で把握し、孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、これまでの関係性を大切にしながら、本人の経過を家族に尋ねたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	発語での意思表示が難しい入居者には、複数選択肢を提示し、表情、態度で判断するよう努めている。難聴者にスケッチブックを使用し意思疎通を図るなど、工夫されている。問題行動の有る入居者に対しては職員間で原因及び対応を話し合い、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め利用者さんとの会話にも活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の状態や過ごし方等記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン書き換え前に担当者とケアプランの見直しを行い課題やケアについて話し合い利用者さんや家族さんの希望を聞いて介護計画を作成している。	入居者の日頃の様子を観察しながら意向を把握し、入居者毎の担当職員、在籍職員、管理者で話合った上でケアプランを見直している。主治医には事前にアドバイスを受けている。短期目標を日々の支援記録に時間軸で記載し、支援がしやすいよう工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に様子やケアの実践を記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り本人に会うサービスが出来るように職員は取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の老人会活動がなく参加する機会が減っているが近隣地区や町内の行事に参加して少しでも楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ホーム対応、家族同行、訪問診療など本人及び家族等の希望のかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診は以前からのかかりつけ医を継続受診している。職員が同行し、受診結果は家族へ電話連絡している。2名の入居者は、毎月一度、訪問診療が行われている。受診時はバイタル記録、支援記録コピーを持参している。緊急時はかかりつけ医に電話連絡し、対応策を尋ねている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中でとらえた現状や気づきを、訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。介護サマリーと看護サマリーとの情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、契約段階から・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明している。	終末期の支援については入居時に看取り支援は行わない旨を説明し、本人の食事が出来なくなった段階で、かかりつけ医に相談し、設備面でも医療行為が難しい事を伝え、今後の対応策を家族と話合っている。夜勤職員のストレス対策としてマニュアルを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応の訓練研修をうけている。消防署からも講習をしてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域とのネットワーク協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震、利用者が避難できる方法を、月1回避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域とのネットワーク協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐために日勤帯の終了時は安全確認ノートを記している。	ホームでは毎年2回消防署立合いで避難訓練を実施し、重度者の避難は米俵を入居者に見立てて行っている。防災の日に水害を想定し、高台にある民生委員宅へ避難する訓練も実施している。緊急時の役割分担、地域協力関係者との協定も締結されている。現在、裏山の土砂災害が不安要因であり、ホームとして対応策を模索中であり、安全対策が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのかたの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないようトイレのことなど小声の言葉かけや対応をしている。	入居者のプライバシーを損なわない接し方に留意するよう職員が振り返りを行っており、声のトーンや背後から声掛けしない等に配慮している。職員は方言や標準語を臨機応変に使用しながら支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いや希望を、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりはなく、一人一人のペースを大切にし、起床時間、朝食その日によって違う方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜と日中の服は必ず交換してその人らしい身だしなみをしてもらっている。季節の衣類交換は担当者が行なっている。希望者はホーム内での散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人一人の好みや嫌いなものを把握している。利用者と職員と一緒におしぼり巻、配膳等準備や茶碗ふき片付けをしている。	施設長が毎週のメニューを決めているが、家族から野菜等の差入れ、食材仕入れ時の値段などで随時変更も行っている。花見等に弁当を持参して外食する機会もある。メニューには野菜類を多く取入れ、入居者の嗜好も可能な限り対応されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた形態、食べる量、食器の工夫や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、支援をしている。希望に応じてペットボトルを常に置いている方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。磨き直し、義歯、歯間みがきの必要な方は職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らすように、一人一人の排泄のパターン、時間をみて声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握すると共に、日頃の生活を見て声掛け誘導を行う事で失禁の少ないこまめな支援に努めている。又、家族へおむつ類の種類や価格等の助言も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水や献立の工夫、運動、腹部マッサージ等個々に応じた入浴でのジャグジーマッサージ予防に取り組んでいる。他Drからの便秘薬処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽はジャグジーになっていて希望者にはジャグジー入浴を楽しめるようにしているが、職員の都合で曜日や時間帯を決まっている。	入浴は1週間で冬季2回、夏季3回の入浴で基本職員1名で支援している。入浴を拒否する場合は清拭対応で、感染症等の皮膚疾患の場合は、入浴順の変更やマット交換を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠時間に合わせその方々の生活習慣やその時々状況に応じている。冬季、夏季は室内の温度調節に気を付け安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について通院記録等に関し理解している。変化がある時はかかりつけ病院に密に連絡を取り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。現在訪問診療も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まだ自分もできると張り合いや喜びのある簡単な役割をケアプランに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が希望された時は教会に連れて行ったり町の運動会に連れ出し家族や地域の方とふれあってもらったりそのまま1日家族さんと過ごしたりされる。。	好天時は入居者を散歩に誘い、ホーム周辺で花を愛でる等支援されており、受診の帰りに買物に立ち寄る事もある。歩行困難な入居者には車椅子を使用し外出されている。雨天時は窓越しに景色を眺め、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持って、自分で品を買いたいと希望があれば、お金を所持したり使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に本人が掛けたいと言われれば職員が掛け自らが電話で話したり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはや居室は尿、便臭がしないように換気したり玄関には必要以外の靴は置かず居間はカーテンで日差し等調節している。又夏場は居室にはヨシズやスタレを行い温度調節をしている。	共用空間には加湿器及び空気清浄機が設置しており、畳の間は水拭きができる畳を使用し清潔に心がけている。又、歩行時に邪魔にならないようなソファやテーブルの配置があり、動線にも配慮されている。壁面には家庭的雰囲気を損ねない飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごされる方は利用者同士の関係を利用者で把握し、孤立せずに関わり合い、一人になりたいときは自室で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを持ってきてもらい使用されている。	高額品、火気、刃物類以外の持込は可能と入居契約時に説明している。居室は使い慣れたもの、思い出の品が持込まれており、担当職員が空調管理、清掃を行い清潔で過ごし易い居室づくりに配慮されている。居室内の模様替え時は家族に説明し了解を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間で過ごされる方のソファの配置、トイレへの貼り紙自室入口個々の名前や目印、自室は個々が動きやすいようにタンスなど配置している。		